

令和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K01418

研究課題名（和文）有権者はポピュリズムの何に惹かれるのか：ポピュリスト言説支持構造の日米英比較分析

研究課題名（英文）Do Populists Support Populism?

研究代表者

西川 賢（Nishikawa, Masaru）

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：10567390

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、世界的にも注目が集まっているポピュリズムに対して、ポピュリストの言説が、どのような有権者に支持されるかを国際比較で明らかにするものであった。

成果は、American Political Science Association, Southern Political Science Association, Midwest Political Science Association、日本政治学会、日本選挙学会といった国内外の学会で報告され、国際査読付き学術誌であるParty Politics、数多くの国内学術誌に成果論文が刊行された。さらに善教が社会発信的論考を『中央公論』に発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、ポピュリズムの支持構造を国際比較により分析した点にある。本研究の成果は国際的に評価されている。Party Politicsの論文は国内外で注目され、Alexander Wuttke氏、Paul Kenny氏など、世界の研究者に先行研究として引用された。本研究の学術的意義が、国際的に広く認知されている証左である。また、善教が本研究の成果を『中央公論』に発表するなど、一般にもわかりやすい形で研究成果を発信し、研究知見を社会還元することに注力した。善教は2019年度のサントリー学芸賞を受賞したが、本研究の意義が、学術界のみならず一般社会のニーズに合致し、重要性が認知された証左である。

研究成果の概要（英文）：This study was an international comparison of populist discourse and the type of voters who support it in response to populism.

The results were reported at domestic and international conferences such as American Political Science Association, Southern Political Science Association, Midwest Political Science Association, Western Political Science Association, Japan Political Science Association, and Japan Association of Electoral Studies. Also, the results were published in Party Politics, an international peer-reviewed academic journal, and many domestic academic journals such as Nenpo Seijigaku. In addition, Zenkyo published a socially-oriented essay in the Chuo-koron.

研究分野：政治学

キーワード：ポピュリズム 都民ファーストの会 小池百合子 政治態度 政治行動 国際比較 サーベイ調査 テキスト分析

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究開始当初では、どのようなポピュリストの言説が、どのような有権者に支持されるのかを国際比較の視座から明らかにすることを目指していた。世界的な政治現象としてみなされているポピュリズムに対して、本研究では日米英の比較検討を通じ、共通項のみならずその相違についても示すことを目指した。

そのような本研究は、今後の国内外の政治展開を見通すための指針になり得るものである。本研究の重要な方法論的特徴は、サーベイ実験を用いて上記課題に取り組む点にある。候補者のスピーチの内容を無作為に変える新たな実験手法の提案と、その比較分析によって先行研究以上の頑健性を兼ね備えた新たな知見の提示をここでは目指す。そのために、1年目にポピュリスト言説を構造化した上で、2年目にそれを下地とするサーベイ実験を実施、3年目は成果をまとめ、国内外の学会での報告と査読付き学会誌に投稿する準備を進めることを計画した。

研究開始当初の本研究の中核をなす基本的な問いは「有権者はポピュリズムの何に惹かれるのか」であった。この問いに答えるために、本研究では次の2つの問いの解明に取り組むことを企図していた。第1は「どのようなポピュリスト政治家の言説が、どのような有権者に支持されるのか」である。第2は「ポピュリズム現象にはどのような相違があるのか」である。これらの問いに解答を与える作業を通じ、本研究は有権者と政治家の間の政治的相互作用に関する新たな知見を提供しようと試みた。

以上の課題に取り組む背景には、代表者のポピュリズム研究への問題意識がある。第1に、多くの先行研究は政治家側と有権者側の相互作用を十分に考慮していない。ポピュリストの言説やスタイルの研究(Grbeša and Šalaj 2016; Hawkins 2009)や、有権者のポピュリスト態度に関する研究(Akkerman et al. 2014; Inglehart and Norris 2017; Schulz et al. 2017)はあるが、これらは独立する形で行われており、両者を統合する視点の欠如が見受けられた。

第2に、先行研究は国ごとのポピュリズムの特徴を十分に議論していない。先行研究はポピュリズムの「共通項」を見出す傾向にあるが(Müller 2016; 吉田 2016; 山本 2016; 水島 2016)、Brexit やトランプ現象、維新の会の台頭はそれぞれ異なる政治現象であり、そこにはJudis(2016)が指摘するような国ごとの相違がある。しかし、この点に関する検討は十分に進められてこなかった。国別にポピュリズム政治を分析する研究(中谷他 2017)は多くあるが、これは共通の評価軸を設けた上で国ごとの相違を析出する研究というわけではなかった。

上述の問いに答えるには、代表者が行ってきた研究を下地に、政治家側と有権者側を統合する新たなアプローチを提示する必要がある。さらにアメリカだけでなく複数の国のポピュリズムを相対化し、比較する必要もあるとの問題意識から、本研究計画を策定した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ポピュリスト言説への有権者の支持構造を国際比較の見地より実証的に明らかにすることであり、ポピュリスト政治の典型例である日米英の事例を対象に、言説を構造化した上で各国の有権者を対象とするサーベイ実験を実施するものであった。これによりポピュリストの言説の何が有権者に支持されるのか、どのような有権者がポピュリストの言説を支持しやすいのか、有権者の支持構造にどのような国ごとの相違があるのかを明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

本研究には次の3つの特徴がある。第1は、アプローチの新規性である。ポピュリズム研究は既に多数蓄積されているが、本研究のように政治家側と有権者側の視点を統合する研究は少なく、ここに本研究の新規性がある。第2は、意識調査とサーベイ実験の融合である。本研究では有権者の態度ごとに、政治家のスピーチ内容を無作為に変化させる実験の結果を分析する。これによりスピーチの影響力が、有権者の態度により変化するという交互作用についても分析可能となる。この方法論は本研究独自の発想である。第3は、国際比較実験である。ポピュリズム支持構造の特徴を明らかにする実験に基づく国際比較研究は、代表者の管見の限り存在しない。ゆえに、この点にも本研究の新規性がある。

4. 研究成果

本研究では、「ポピュリストのどのような言説が、どのような有権者に支持されるのか」を国際比較の視座から明らかにした。世界的な政治現象としてみなされているポピュリズムに対して、本研究では日米伊(当初の計画では英国でサーベイを実施予定であったが、物理的な制約からイタリアに変更した)の比較検討を通じ、共通項のみならずその相違についても示すことを目指してきた。

以下に示すように、本研究では9件の学会報告(内、5件は国際学会)、7件の学術論文公刊(国際ジャーナルと国際共著を含む)に結実し、非常に多くの研究成果があがった。以下、年度ごとの成果を具体的に説明する。

初年度である2018年度には先行研究の整理と検討を行いつつ、新聞記事等を用いたテキストマイニングによりポピュリスト言説の構造分析を行った。このような作業は順調に進められ、日本人を対象とするサーベイデータの収集も2019年初頭に順調に進んだ。また、これと並行して、すでに先行して収集してあった日本のサーベイデータを用いた日本の事例に関する分析を論文にまとめる作業がはかどったので、American Political Science Association, Southern Political Science Association, Midwest Political Science Association, 日本比較政治学会、日本選挙学会で研究成果の報告を連続して行い、国内外の研究者から極めて示唆的なフィードバックを得ることができた。

さらに、その成果は早くも論文にまとめることができたので、政治学の国際査読付き学術雑誌である Party Politics へ投稿を済ませ、2019 年 4 月に無事受理され、出版された(すでに国際的にも数多くの引用を得ている)。

初年度には、研究分担者との意思疎通もきわめて円滑に行われ、SNS を用いて研究成果の学会報告予定を周知するなど、研究成果を広報することにも努めてきた。

二年目である 2019 年度には、西川はポピュリズムに関するアメリカの先行研究をまとめ、アメリカの 19 世紀の政治家に関する歴史的文書を広く収集し、トピック・モデルやコサイン類似度など、テキスト分析の手法を用いて分析を行い、成果を日本比較政治学会と北海道大学の国際シンポジウムで報告した。この成果をもとに、American Political Science Association にも応募したが、これは採択されなかった。

また、初年度の日本人を対象とするサーベイ・データの収集に続き、2019 年度はアメリカ人を対象とするサーベイ・データの収集を順調に進め、数千のサンプル回収に成功した。さらに、稗田は欧州社会調査(ESS)第 4 波から第 8 波のデータを用い、欧州 22 カ国のポピュリスト政党への支持態度を分析する論文をまとめ、国際ジャーナルに投稿中である。

また、一年目までの成果をまとめた論文が政治学の国際査読付き学術雑誌である Party Politics から 2019 年春に公開された。同論文は、Alexander Wuttke 氏や Paul Kenny 氏など、世界の同分野の研究者に先行研究として注目され、検討・引用されている。本研究は世界的な注目を得たといえる。

研究分担者との意思疎通もきわめて円滑に行われ、SNS を用いて研究成果の学会報告予定を周知するなど、研究成果を広報することにも努めてきた。

最終年度である 2020 年度には、西川はポピュリズムに関するアメリカの先行研究をまとめ、収集したアメリカの 19 世紀の政治家に関する歴史的文書を広く収集し、トピック・モデルやコサイン類似度など、テキスト分析の手法を用いて分析を行い、成果を 2021 年 1 月の Southern Political Science Association, 4 月の Western Political Science Association で報告し、Midwest Political Science Association でも報告した。

また、初年度のアメリカ人を対象とするサーベイ・データの収集に続き、最終年度には稗田・善教の監督下で、日本人とイタリア人を対象とする調査を実行し、数千のサンプル回収に成功した(当初の研究予定では英国でサーベイ調査を実施予定であったが、物理的制約からイタリアに変更した)。善教は『選挙研究』に二本、『公共選択』、『法と政治』に一本ずつ論文を刊行し、日本政治学会でも報告を行った。さらに善教は社会発信的論考を『中央公論』にも発表し、サントリー学芸賞も受賞した。研究分担者との意思疎通もきわめて円滑に行われ、SNS を用いて研究成果の学会報告予定を周知するなど、研究成果を広報することにも努めてきた。

今後も海外学会での研究報告、国際ジャーナル(可能であれば政治学分野のトップジャーナル)への投稿を精励し、本研究で得た知見を最終成果にまとめ、順次世に問う方針である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 善教将大	4. 巻 37
2. 論文標題 「大阪における感情的分極化」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『選挙研究』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 76
2. 論文標題 「知事のリーダーシップと広域連携への支持」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『公共選択』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 71
2. 論文標題 「ポピュリスト態度と維新支持：大阪市民を対象とする分析」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『法と政治』	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 36
2. 論文標題 「政党支持のねじれ：大阪市民を対象とするサーベイ実験より」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『選挙研究』	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 善教将大	4. 巻 134
2. 論文標題 「コロナ禍の中の維新支持：吉村大阪府知事の高評価は維新支持を牽引するか」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『中央公論』	6. 最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hieda Takeshi, Zenkyo Masahiro, Nishikawa Masaru	4. 巻 23
2. 論文標題 Do populists support populism? An examination through an online survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly election	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Party Politics	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/1354068819848112	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 西川賢	4. 巻 20
2. 論文標題 なぜトランプは支持されたのか：先行学説の整理と検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "How Populistic were the Populists in the 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis."
3. 学会等名 2021 Annual Meeting of the Southern Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa
2. 発表標題 "How Populistic were the Populists in the 19th Century America?: Analysis by Automated Textual Analysis."
3. 学会等名 2021 Annual Meeting of the Western Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 善教将大
2. 発表標題 「有権者は地方政治の「監視者」になり得るか？」
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西川賢
2. 発表標題 "Was the People's Party in the United States really Populistic?"
3. 学会等名 第22回・日本比較政治学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 稗田健志、善教将大、西川賢
2. 発表標題 "Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election."
3. 学会等名 日本比較政治学会 (自由論題D、2018年6月23日)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Takeshi Hieda, and Masahiro Zenkyo
2. 発表標題 "Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election."
3. 学会等名 the American Political Science Association (August 30, 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Takeshi Hieda, and Masahiro Zenkyo
2. 発表標題 "Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election."
3. 学会等名 the Southern Political Science Association (January 19, 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaru Nishikawa, Takeshi Hieda, and Masahiro Zenkyo
2. 発表標題 "Do Populists Support Populism? An Examination through an Online Survey following the 2017 Tokyo Metropolitan Assembly Election."
3. 学会等名 the Midwest Political Science Association (April 6, 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 善教将大、稗田健志
2. 発表標題 「誰がポピュリストの言説を支持するのか：サーベイ実験による検証」
3. 学会等名 日本選挙学会（ポスター報告、2018年5月13日）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	稗田 健志 (Hieda Takeshi) (30582598)	大阪市立大学・大学院法学研究科・教授 (24402)	
研究 分担者	善教 将大 (Zenkyo Masahiro) (50625085)	関西学院大学・法学部・准教授 (34504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------